



第30回ももはな会



🌸 日時：2025年2月8日（土）14：00～15：30

🌸 講演：「がん治療後、妊娠に向けて」

「がん治療後の妊娠のために今できること」

🌸 講師：千葉大学医学部附属病院 婦人科 齊藤佳子先生

// 看護師 吉野有希子様

以下、講演内容を抜粋してご紹介致します

【 第1部 がん治療後の妊娠のために、今できること 】看護師 吉野有希子様

- 🌸 妊娠の可能性を残す、とは
- 🌸 妊孕性温存療法の実際
- 🌸 費用と助成金について
- 🌸 事例紹介
- 🌸 利用してほしい社会資源



【 第2部 がん治療後、妊娠に向けて 】医師 齊藤佳子先生

がん治療終了後、妊娠を目指すにあたり、
がんサバイバーと医療者とで一緒に考えていくことについて

- 🌸 がん治療医と
- 🌸 生殖医療医と
- 🌸 がん治療後の妊娠について
- 🌸 プレコンセプションケア



	がんを経験した AYA世代の悩み		がんを経験していない AYA世代の悩み	
1位	自分の将来	57.9%	自分の将来	76.0%
2位	仕事	41.5%	仕事	53.0%
3位	不妊治療や 生殖機能	38.1%	経済的なこと	42.5%
4位	経済的なこと	31.8%	健康	35.5%
5位	後遺症・合併症 のこと	29.5%	学業	29.5%

がんを経験した AYA 世代の多くは、“不妊治療や生殖機能”について、不安を抱えています・・・



出典:冊子「AYA」

平成 27 年～29 年度厚生労働科学研究

「総合的な思春期・若年成人（AYA）

世代のがん対策のあり方に関する研究」

班作成

妊娠の可能性を残すためにできること

手術療法

女性（子宮、卵巣）、男性（精巣）を残せるかどうかによる。

抗がん剤療法

抗がん剤投与前、放射線照射前に、女性（卵子、受精卵、卵巣）、男性（精子、精巣）を採取し保存しておく。

放射線療法

妊よう性温存療法

がん治療前に凍結保存するもの

【男性の場合】

- ・ 思春期以降の射精可能な男性：精子
- ・ 思春期前の男児：精子形成が未熟なため精子保存は困難。精巣組織凍結は研究段階

【女性の場合】

- ・ 初経前の小児：卵巣組織
- ・ 初経以降の未婚女性：卵巣組織・卵子（未受精卵）
- ・ 初経以降の既婚者：卵巣組織・卵子（未受精卵）

【がん治療後】

主治医から妊娠の許可あり

精巣、卵巣機能を評価

問題なし

自然妊娠を試みる

妊娠可能な精子、卵子がない

凍結した精子、卵子、胚を利用した妊娠を試みる

卵子

+

精子

⇒

胚

⇒

子宮に移植し、
胚が子宮に着床する

⇒

妊娠

千葉県内の指定医療機関（7か所）

2023年1月22日現在

	精子	精巣内精子	卵子	胚	卵巣組織
千葉大学医学部附属病院			○	○	*
順天堂大学医学部附属浦安病院	○	○	○	○	
医療法人哲蕉会亀田総合病院	○	○	○	○	
医療法人哲蕉会 亀田IVFクリニック幕張	○	○	○	○	
東京歯科大学市川総合病院	○	○	○	○	
医療法人社団緑萌会 高橋ウィメンズクリニック	○	○	○	○	

* 卵巣組織凍結は県外医療機関へのご紹介となる。



【妊孕性温存療法を行う上で大切なこと】

- がんの治療が最優先（妊孕性温存療法を行う場合、主治医の許可が必要）
- 将来の妊娠が確約できるわけではない（精子、卵子、胚が採取できないこともある、それらを使用しても妊娠に至らないこともあります）
- がん治療前に、自分の行う治療が将来の妊娠に影響するかどうかを確認する
将来の妊娠に影響がある治療を行う場合、主治医に相談の上、がんが診断され、治療開始前のできるだけ早い時期に妊孕性温存療法について検討してみましょう。

【がん治療後に妊娠を目指す上で一番大切なこと】

- 妊娠しても良い体の状態であること
 - ✓ 原疾患の治療医から妊娠を許可されていますか？
 - ✓ その他にも何か持病があるようであれば、その病状がコントロールされて、妊娠できる状態ですか？



妊娠するための選択肢

- ・自然妊娠を目指す
 - ・不妊治療を行う
- 卵巣機能が残っている場合に実施可能
- ・妊孕性温存治療で凍結しておいた卵子・胚(受精卵)を使用する
 - ・妊孕性温存治療で凍結しておいた卵巣組織を体に戻す

- ・化学療法
 - ・適切な避妊期間の後であれば、卵子への影響は考えにくい
 - ・避妊期間 = 薬の半減期 × 5 + 6か月
体から抗がん剤が抜けるまでの期間 + 原子卵胞が排卵するまでの期間
- ・放射線療法
 - ・卵巣に照射されなければ影響はないと考えられる
 - ・卵巣に照射された場合には6か月の避妊が望ましい
- ・ホルモン療法
 - ・タモキシフェン(乳癌に使用)は、催奇形性がある
妊娠を希望する場合には9か月(3か月 + 6か月)の避妊が必要
 - ・MPA(子宮体癌に使用)は内服終了すぐ後から妊娠可能
- ・分子標的薬
 - ・まだわかっていないことが多い
 - ・乳癌に使用するハーセプチンについては、妊娠中の使用で赤ちゃん異常が出る可能性があり、7か月の避妊が必要

ご自身の卵子で妊娠が難しい場合、子どものための制度として、
特別養子縁組や里親制度があります。



千葉県がん・生殖医療相談支援センターでは、患者様、ご家族の方に今何ができるか、そのためにはどこで何をしたらよいかなど妊孕性温存療法に関する情報を提供し、ご希望に沿った医療が受けられるようにサポートしております。
(電話相談・対面相談) TEL043-226-2749

千葉県がん生殖医療相談支援センター

- TEL : 043-226-2749
- URL : <https://www.ho.chiba-u.ac.jp/seisyokuiryo/index.html>



【千葉大学病院のプレコンセプションケア外来】

～妊娠前の相談のための外来～

相談の対象となる方

- ① 現在病気を抱えていて妊娠に不安がある方
- ② 過去の病気や手術により妊娠に不安がある方
- ③ 過去の妊娠でご本人や赤ちゃんの経過が思わしくなかった方



内容

- 事前に主治医から病状に関する情報提供をもらう
- 妊娠前にできることがあるか、妊娠中に想定されることについてカウンセリングを実施
- 過去の治療内容を考慮した、患者さんごとの個別的な話 等

